

File 347:JAPIO Oct 1976-2002/Jun(Updated 021004)

(c) 2002 JPO & JAPIO

*File 347: JAPIO data problems with year 2000 records are now fixed.
Alerts have been run. See HELP NEWS 347 for details.

	Set	Items	Description
	---	-----	-----
?			
	S1	1	PN=JP 3282731
?			

1/9/1

DIALOG(R)File 347:JAPIO

(c) 2002 JPO & JAPIO. All rts. reserv.

03619831 **Image available**

PROGRAM PROCESSOR

PUB. NO.: 03-282731 [*JP 3282731* A]
PUBLISHED: December 12, 1991 (19911212)
INVENTOR(s): ARAKI SHIROYUKI
APPLICANT(s): SHARP CORP [000504] (A Japanese Company or Corporation), JP
(Japan)
APPL. NO.: 02-083677 [JP 9083677]
FILED: March 30, 1990 (19900330)
INTL CLASS: [5] G06F-009/06
JAPIO CLASS: 45.1 (INFORMATION PROCESSING -- Arithmetic Sequence Units)
JOURNAL: Section: P, Section No. 1326, Vol. 16, No. 109, Pg. 118,
March 17, 1992 (19920317)

ABSTRACT

PURPOSE: To prevent a mis-operation by an operator performed by providing a means to generate an interface file corresponding to inputted parameter data, a means to execute a targeted program, and a means to delete the interface file after completing the execution processing of the program.
CONSTITUTION: The means 24b which generates the interface file corresponding to the inputted parameter data, the means 24c which executes the targeted program by using a generated interface file, and the means 24a which deletes the interface file after completing the execution processing of the program are provided. In other words, the interface file can be generated corresponding to the inputted parameter data by inputting parameter data by the operator when the targeted program operable in first system software is operated from second system software. Then, the execution processing of the targeted program can be performed from a second system software side, and when the processing is completed, the interface file is deleted. In such a way, it is possible to save the time and labor of the operator, and to prevent the mis-operation performed.

?

THIS PAGE BLANK (USPTO)

⑪ 公開特許公報(A) 平3-282731

⑫ Int.Cl.⁵

G 06 F 9/06

識別記号

4 1 0 A

庁内整理番号

7927-5B

⑬ 公開 平成3年(1991)12月12日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑭ 発明の名称 プログラム処理装置

⑮ 特 願 平2-83677

⑯ 出 願 平2(1990)3月30日

⑰ 発 明 者 荒 木 白 幸 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ株式会社
内

⑱ 出 願 人 シャープ株式会社 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

⑲ 代 理 人 弁理士 川口 義雄 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

プログラム処理装置

2. 特許請求の範囲

第1のシステムソフトウェアにおいて動作可能な目的のプログラムを第2のシステムソフトウェア側から動作させるプログラム処理装置であって、入力したパラメータデータに応じてインタフェースファイルを作成する手段と、該作成したインタフェースファイルを用いて前記目的のプログラムを実行する手段と、該実行手段が目的のプログラムの実行処理を完了した後該インタフェースファイルを削除する手段とを備えたことを特徴とするプログラム処理装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、あるシステムソフトウェアから他のシステムソフトウェアのプログラムを実行可能なプログラム処理装置に関する。

〔従来の技術〕

第1のシステムソフトウェアSYS1において動作可能なプログラムを第2のシステムソフトウェアSYS2によるプログラム処理装置で動作させるには、一般にインタフェースファイルが必要である。

従来のプログラム処理装置において、このインタフェースファイルは、第2のシステムソフトウェアSYS2で動作するユーティリティソフトウェアであらかじめ作成され、記憶装置に常時記憶されている。

第4図は、この種の従来のプログラム処理装置の構成を示している。

同図に示すように、このプログラム処理装置は、システム全体を制御する制御装置11と、RAM(ランダムアクセスメモリ)、ROM(リードオンリメモリ)、フロッピーディスクドライブ等の記憶装置12と、キーボードやマウス等の入力装置13と、CRT(陰極線管)表示装置やプリンタ等の出力装置14とを有している。これらの装置11～14は、第2のシステムソフトウェアSYS2によ

って動作するように構成されている。

このプログラム処理装置はまた、第1のシステムソフトウェアSYS1のプログラムを動作させるための制御ソフトウェアを有するSYS1制御装置11を備えている。このSYS1制御装置11は、同図に示すように、第2のシステムソフトウェアSYS2で動作するユーティリティソフトウェアでインタフェースファイルをあらかじめ作成するインタフェースファイル設定・作成装置11と、第1のシステムソフトウェアSYS1の目的のプログラムを実行処理するSYS1用プログラム実行制御装置11とから主として構成されている。

〔発明が解決しようとする課題〕

しかしながら従来のプログラム処理装置によると、インタフェースファイルはユーザー側からは見えないため、誤って消去されてしまう恐れがある。しかも、インタフェースファイルを作成するためには、目的のプログラムがどれだけメモリを占有するか、どのような入出力装置を使用するか等パーソナルコンピュータにおける専門的な技術、

知識が必要であり、一度消去してしまうと一般の操作者が作成することは非常に困難である。

従って本発明の目的は、操作者がインタフェースファイルを誤って消去してしまい、アプリケーションプログラムの実行が不能となる如き事態を未然に防止できるプログラム処理装置を提供することにある。

〔課題を解決するための手段〕

上述の目的を達成する本発明の要旨は、第1のシステムソフトウェアにおいて動作可能な目的のプログラムを第2のシステムソフトウェア側から動作させるプログラム処理装置であって、入力したパラメータデータに応じてインタフェースファイルを作成する手段と、作成したインタフェースファイルを用いて目的のプログラムを実行する手段と、実行手段が目的のプログラムの実行処理を完了した後このインタフェースファイルを削除する手段とを備えたことにある。

〔作用〕

第1のシステムソフトウェアにおいて動作可能

— 3 —

— 4 —

な目的のプログラムを第2のシステムソフトウェア側から動作させる場合に、操作者が目的のプログラムに渡すためのパラメータデータを入力すると、入力したパラメータデータに応じてインタフェースファイルが作成される。この作成したインタフェースファイルを用いて第2のシステムソフトウェア側から目的のプログラムが実行処理され、処理が完了するとそのインタフェースファイルが削除される。

〔実施例〕

以下、図面を参照して本発明の実施例を説明する。

第1図は、本発明に係るプログラム処理装置の一実施例を示すブロック図である。

同図に示すようにこのプログラム処理装置は、システム全体を制御する制御装置10と、RAM、ROM、フロッピーディスクドライブ等の記憶装置11と、キーボードやマウス等の入力装置12と、CRT表示装置やプリンタ等の出力装置13とを有している。これらの装置10～13は、第2のシステ

ムソフトウェアSYS2によって動作するように構成されている。

このプログラム処理装置はまた、第1のシステムソフトウェアSYS1のプログラムを動作させるための制御ソフトウェアを有するSYS1制御装置14を備えている。このSYS1制御装置14は、同図に示すように、インタフェースファイルを削除するインタフェース削除制御装置14と、第2のシステムソフトウェアSYS2で動作するソフトウェアでインタフェースファイルを自動的に作成するインタフェースファイル設定・作成装置14と、第1のシステムソフトウェアSYS1の目的のプログラムを実行処理するSYS1用プログラム実行制御装置14とから主として構成されている。

第2図は、SYS1制御装置14のインタフェース削除制御装置14及びインタフェースファイル設定・作成装置14の動作を説明するためのフローチャートである。

まずステップ1において、ユーザーが、第1の

— 5 —

— 6 —

システムソフトウェアSYSLの実行しようとするプログラムに関するパラメータデータ、例えばファイル名等、を入力装置11を介して入力する。これにより、インタフェースファイル設定・作成装置14は、ステップ12においてこのパラメータデータを解析し、次のステップ13において作成されるインタフェースファイル内に設定されるパラメータデータエリアのデータを更新する。そしてステップ14において、インタフェースファイルを作成する。

その後、インタフェースファイル設定・作成装置14からSYSL用プログラム実行制御装置16に制御を移行させ、目的のプログラムを実行する(ステップ15)。

次いで、目的のプログラムの実行処理を完了した後、そのインタフェースファイルを削除する(ステップ16)。

第3図は、SYSL用プログラム実行制御装置16の制御動作を説明するためのフローチャートである。

- 7 -

115の処理が終了するとステップ118へ進む。

ステップ112においては、動作環境の設定が正しく行われた否かを判断する。正しく行われてないと判断した場合は、ステップ115へ進み、その旨を出力装置13に出力して目的のプログラムの実行処理を中止する。

動作環境の設定が正しく行われたと判断した場合はステップ116へ進み、SYSL用の目的のプログラムが実行可能であるかどうか判断する。実行不可能の場合はステップ115へ進んでその目的のプログラムの実行処理を中止する。

実行可能であると判断した場合は、ステップ117へ進み、そのSYSL用の目的のプログラムの実行処理を行う。次いでステップ118へ進み、制御をインタフェース削除制御装置14へ移行させる。

このように、インタフェースファイルが第1のシステムソフトウェアSYSLの環境下の目的のプログラムを実行する場合にのみ自動的に作成され、かつそのパラメータデータエリアが更新され、

- 9 -

第2図のステップ15によりSYSL用プログラム実行制御装置16に制御が移行すると、まず、ステップ110において、インタフェースファイルが存在するかどうか判断する。

インタフェースファイルが存在する場合にはステップ111へ進み、インタフェースファイルの内容を解析して、SYSL用の目的のプログラムを動作させるための環境を整備した後、ステップ112へ進む。動作環境の整備としては、例えば、必要なメモリ空間の確保、通信用のシリアルポートの確保等がある。

ステップ111において、インタフェースファイルが存在しないと判断した場合には、ステップ111へ分岐し、あらかじめ決められた標準的な動作環境整備を行うかどうかを判断する。標準的な動作環境整備を行うと判断した場合は、ステップ114でその処理を実行した後、ステップ116へ進む。動作環境の設定が不可能である場合には、ステップ115へ進み、その旨を出力装置13に出力して目的のプログラムの実行処理を中止する。ステップ

- 8 -

この目的のプログラムの実行処理を完了した後、作成されたインタフェースファイルが自動的に削除される。従って、本実施例によれば、操作者がパーソナルコンピュータにおける専門的な技術、知識を有することなく簡単なパラメータデータを入力するだけで第2のシステムソフトウェアSYSL側から第1のシステムソフトウェアSYSLのプログラムを確実に実行できる。しかも、操作者が誤ってこのインタフェースファイルを削除するような恐れも全くない。

また、コンバータ等のプログラムにおいてコンバートしたデータを出力するファイル名の変更を行う場合、従来は第2のシステムソフトウェアSYSLで動作するユーティリティソフトウェアでパラメータデータの修正作業を行わねばならなかったが、本実施例によればこのような余分な作業が不要となる。

【発明の効果】

以上詳細に説明したように本発明によれば、第1のシステムソフトウェアにおいて動作可能な目

- 10 -

的のプログラムを第2のシステムソフトウェア側から動作させるプログラム処理装置であって、入力したパラメータデータに応じてインタフェースファイルを作成する手段と、作成したインタフェースファイルを用いて目的のプログラムを実行する手段と、実行手段が目的のプログラムの実行処理を完了した後このインタフェースファイルを削除する手段とを備えているため、操作者がインタフェースファイルを誤って消去してしまい、アプリケーションプログラムの実行が不能となる如き事態を未然に防止することができる。しかも、他の処理動作では不必要なインタフェースファイルが常時記憶されていないので、その分記憶容量を効率よく使用することができる。

4. 図面の簡単な説明

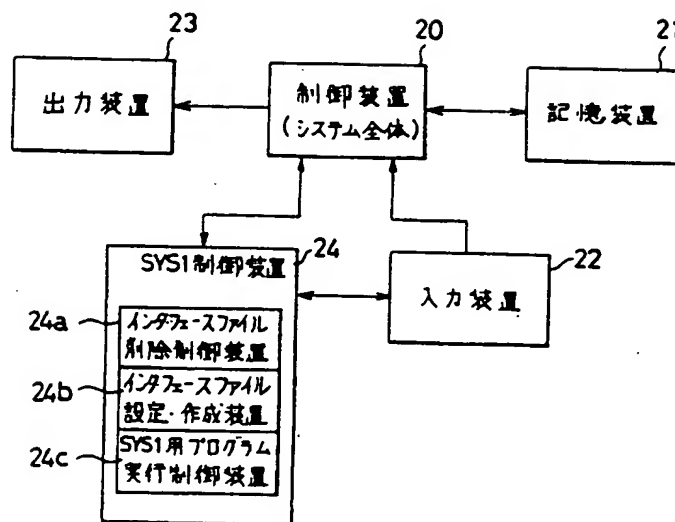
第1図は本発明に係るプログラム処理装置の一実施例を示すブロック図、第2図及び第3図は第1図のプログラム処理装置の動作を説明するためのフローチャート、第4図は従来のプログラム処理装置を示すブロック図である。

20……制御装置、21……記憶装置、22……入力装置、23……出力装置、24……SYS1制御装置、24a……インタフェース削除制御装置、24b……インタフェースファイル設定・作成装置、24c……SYS1用プログラム実行制御装置。

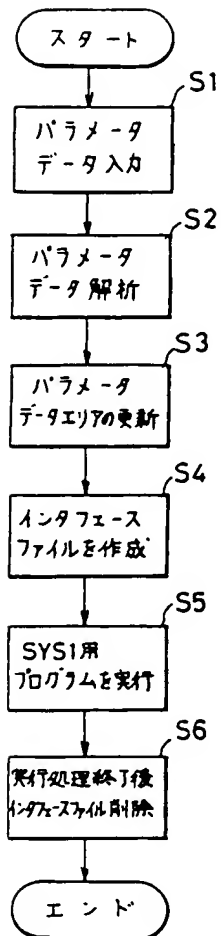
出願人 (504)シャープ株式会社
代理人 弁護士 川 口 義 雄
代理人 弁護士 中 村 至 武
代理人 弁護士 船 山 武

- 1 1 -

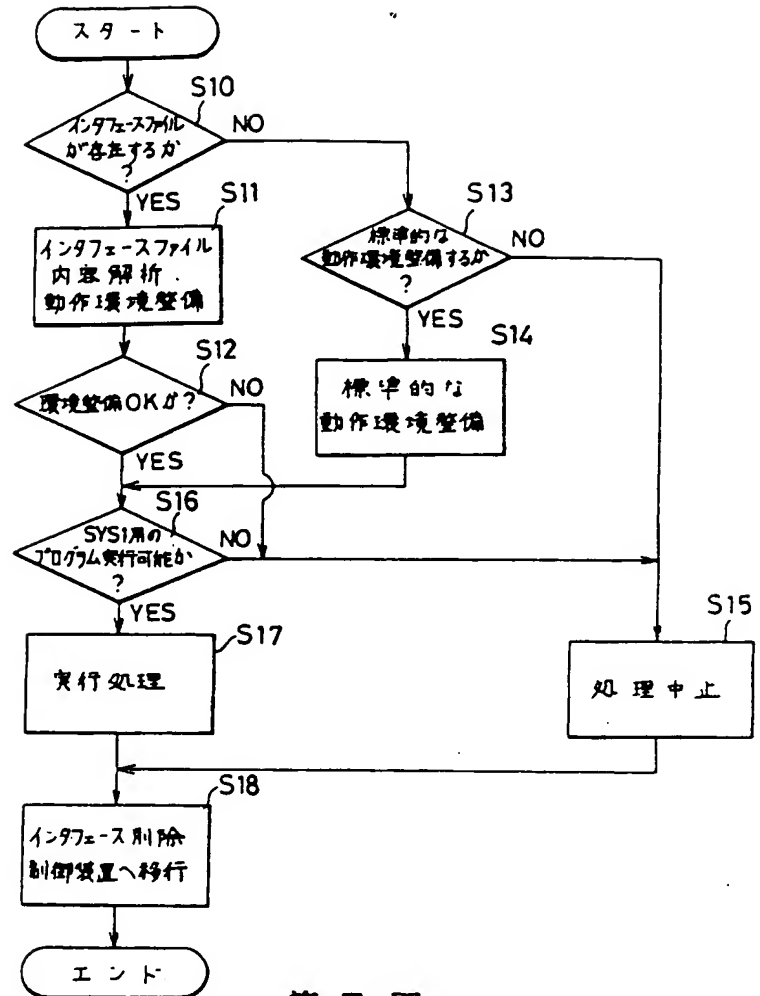
- 1 2 -



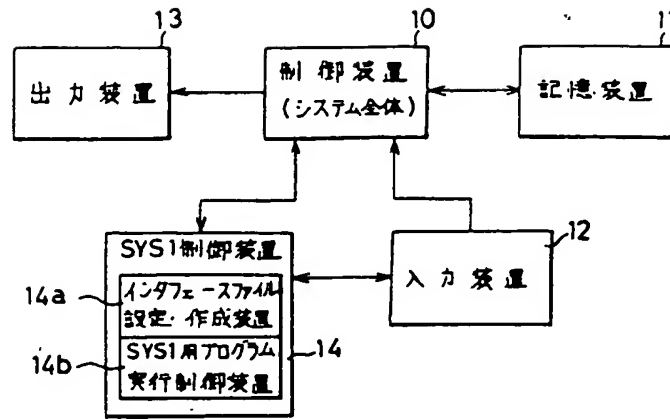
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図